

国語プリント No. ( )

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

山月記 李徴の漢詩を読み解く 第3段落

李徴は自分の思いを即席の漢詩に詠んだ。この漢詩が李徴の境遇、思いを端的に表している。  
(端的に表しているということとは「象徴」に繋がる。) その漢詩を読み解くことで李徴の胸の内を探ろう。

① 偶 狂疾に因つて殊類と成る  
たまたまきやうしつ よ しゆるい  
狂気に冒され

② 災患相仍つて逃がるべからず  
さいくわんあひよ のが

③ 今日爪牙誰か敢へて敵せんや  
けうが たれ あ

④ 当時は声跡共に相高かりき  
せいせき あひ

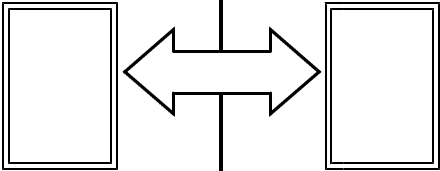
⑤ 我は異物と為りて蓬茅の下にあれども  
わが ひとものもと

⑥ 君は已に輶に乗りて氣勢豪なり  
きみ すでん えう

⑦ 此の夕溪山明月に對し  
この ゆふけいざんめいげつ

⑧ 長嘯を成さずして但嗥を成すのみ  
ちやうせう ただかう

問一、この詩の形式は ( )。言 ( )。押韻は ( )。聯と ( )。聯にある。  
問二、( ) ということは、対句は少なくとも ( ) ( ) 聯に ( )。  
問三、対を見つけて印を付ける。(必ずしも対句だけにあるとは限らない。)  
問四、それらのを2つのグループに分け、そのグループはそれぞれ何のことを言っているのか  
当てはめる。(何の象徴だろうか?)

問五、李徴は自分のことをどのように見ているか。

--